

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 7 月 22 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (7/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 1.9 m ³ /h	27.9	4.0 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.3 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	36.1	7.62 kPa g	A系： 0.05 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.3 m ³ /h	34.3	0.23 kPa g	A系： 0.03 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.03 Vol%

作業に伴いデータ欠測

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (7/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	27.5
2号機	循環冷却システム	運転中	26.2
3号機	循環冷却システム	運転中	25.9
4号機	循環冷却システム	運転中	24.4

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	7/22 9:50 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	6/16 14:42 ~ 移送実施中

- ・ 4号機使用済燃料プールから共用プールへの燃料移動作業において発生する構内用輸送容器(キャスク)内包水(4号機使用済燃料プール水)および構内用輸送容器(キャスク)内洗浄水については、沈降分離処理し、共用プール低電導度廃液受タンクで貯水しているが、H26/7/22 10:00~10:35 共用プール低電導度廃液受タンクから集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)への移送を実施。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (7/22 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中*1	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

- ・ H26/1/29 ~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。

4/2 ~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。

4/28 ~ 4/26 に全 17 本の凍結管の挿入作業、そのうち 13 本のパッカー設置作業が終了したことから、凍結管全 17 本の凍結運転を開始。今後、凍結の壁を造成していく予定であり、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・H26/6/2 ~ 凍土遮水壁工事を開始。

・H26/7/19 1:25 頃、5号機原子炉建屋5階オペレーティングフロアの2箇所の弁ボックス内にある燃料プール冷却浄化系の弁付近に水溜りがあることを当社社員が発見。水溜りの範囲は、それぞれの弁ボックスで、約 75cm × 約 50cm × 深さ約 9cm と約 75cm × 約 50cm × 深さ約 18cm であることを確認。

当該弁2箇所(A系およびB系)の水溜りについて、放射能分析結果は以下の通り。

(A系:水溜り深さ約9cm)

・コバルト-60 2.1×10^0 Bq/cm³

・マンガン-54 7.3×10^{-2} Bq/cm³

(B系:水溜り深さ約18cm)

・コバルト-60 3.4×10^0 Bq/cm³

・マンガン-54 7.3×10^{-2} Bq/cm³

このコバルト-60の放射能濃度レベルは、使用済燃料プールにおける濃度と同程度であることを確認。

弁ボックス内の水をくみ上げて弁ボックス内の清掃を行い、燃料プール冷却浄化系の健全性を確認するため、同日 15:31 に残留熱除去系による原子炉冷却から使用済燃料プール冷却に切り替えを実施。その後、当該弁からの漏えいはなく、異常がないことを確認し、安定して使用済燃料プール冷却が可能であることを確認。

その後、定期的なパトロールにより、当該弁付近からの漏えいがないことを確認。

7/20 8:00 時点の使用済燃料プール水温度は 25.8、7/21 8:00 時点の使用済燃料プール水温度は 25.4 であり安定した冷却を継続(*)。引き続き、監視を行っていく。

* 残留熱除去系による原子炉冷却から使用済燃料プール冷却に切り替えをした時の使用済燃料プール水温度は 26.9。

・1 ~ 4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日 7/9]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。H26/7/20 9:58 に海洋への排水を開始したが、流量確認時に流量計の表示が確認できなかったことから、同日 10:04 に排水を一旦停止。流量計の表示が確認出来なくなった理由は、当社社員が流量計についた水滴を拭き取る際に、計器の操作部に触れたためと考えられる。

その後、流量計の調整が終了し、排水準備が整ったことから、同日 18:33、海洋への排水を再開。排水状況について、同日 18:49 に漏えい等の異常がないことを確認。7/21 1:51 に排水を終了。排水量は、一時停止前の排水量も含め 1,820m³ で、排水において漏えい等の異常がないことを確認。

・H26/7/21 22:00 ~ 多核種除去設備B系について、6月にC系にて新たに確認されたすきま腐食の対策(腐食が確認された吸着塔のフランジ部へガスケット型犠牲陽極を設置)を行うため 10 日間程度、処理運転を停止。また、H26/3 以降、炭酸塩処理クロスフローフィルタ(CFF)でガスケットの放射線劣化などの原因から炭酸塩スラリーが流出(問題が確認された炭酸塩処理CFFについてはA ~ C系統において対策品に交換済み)。鉄共沈処理CFFについては、これまでに問題は確認されていないものの、予防保全の観点から、今回腐食対策を行うB系統について、改良型CFFに交換を行う予定。

なお、現在処理運転中の多核種除去設備A系およびC系の鉄共沈処理CFFについても、同様に交換を行う予定。(A系:8月上旬、C系:準備ができ次第)

【地下水バイパス揚水井の状況】

・地下水バイパス揚水井 No.1 ~ 12 のサンプリングを継続実施中。

【H4, H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6エリア周辺のサンプリング実績 >

・7/19 に採取したH6エリア周辺G - 2観測孔の地下水について、トリチウムの測定値が 3,600Bq/L[7/18 採取分の分析値:150Bq/L、過去最高値:7,000Bq/L(3/24 採取)]であった。降雨の影響で測定値が上昇したものと考えており、今後も傾向を監視していく。その他の分析結果については、前回(7/18 採取分)の測定値と比較して大きな変動はない。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

< 地下貯水槽サンプリング実績 >

- ・ 前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上